

高 齢 医 学

【単位数：1単位，授業 13 コマ，予備2コマ（定期試験含まず）】

当該科目は医師としての臨床経験を持つ教員が担当する授業科目である。

1 科目責任者

岩崎 靖 教授（加齢医科学研究所）

2 教育目標

（１）ねらい（Ⅰ-5-b，Ⅱ-1-b，Ⅲ-3-b，Ⅲ-4-b，Ⅲ-5-b）

- ① コンピテンスであるプロフェッショナリズム，コミュニケーションなどに基づき，コンピテンシーである高齢者の特徴を正しく理解し，医学研究者・医療従事者として高齢者の医学・医療に取り組む能力習得を目的とする。
- ② 高齢医学では高齢者にかかわる諸問題を各論的，臓器別の講義ではふれにくい内容について統合的に理解する。

（２）学修目標

- ① 医学・医療の面からみた高齢者の特徴について総合的に把握する。
- ② 高齢者に多い認知症や骨疾患などの病態を若年者と比較して考察することが出来る。
- ③ 将来活動する医療の現場で高齢者の医療・介護において考慮すべき問題を把握し，医療チームの中心となって指導出来る基礎知識を身につける。

3 成績の判定・評価

（１）総合成績の対象と算出法

	成績 対象	割合	方法・コメント
定期試験	○	100%	多肢選択問題（マークシート）
態度	○	—	著しく態度不良の場合は成績から最大10%の減点をする。

出席：定期試験を受験するためには欠席率が3分の1を超えてはならない。

（２）合格基準

評価対象の合計が60%以上（又は60点以上）で合格とする。

（３）再試験・再評価の方法

定期試験で60%未満の場合は，再試験を実施する。再試験は定期試験に準ずる方法で実施する（60%以上で合格）。

（４）課題（試験やレポート）へのフィードバック

定期試験の成績について，正答率の低かった問題，理解が不十分と考えられた問題については，解説をAIDLE-Kに掲載する。

4 教科書

書名	著者名	出版社	教科書として指定する理由
指定教科書なし			

5 参考図書

書名	著者名	出版社	参考図書とする理由
これからの老年学[第二版]	井口昭久 編集	名古屋大学 出版会	老年学の入門書である。
老年医学系統講義テキスト	日本老年 医学会編集	西村書店	系統的に記載され、学習目標が明確である。
新老年学 第3版	折茂 肇	東京大学 出版会	老年学のエンサイクロペディアである。
みるトレ 神経疾患	岩崎 靖	医学書院	臨床における神経疾患の入門書である。

6 準備学習（予習・復習）

- 老年医学の参考図書を閲覧して、主要な項目を確認し、総論と各論の骨格について簡単な知識を得ておく（1日あたり約0.5時間）。
- 高齢者の生物学的、医学的、社会的特徴を把握しておく（1日あたり約1時間）。
- 認知症の概要を把握しておく（1日あたり約0.5時間）。

7 授業計画

（１） 講義の方法

大教室での知識伝達型の講義を原則とする。講義中の質疑応答などのアクティブ・ラーニングを重視する。

（２） 講義の内容

高齢医学総論を基礎とし、各論として泌尿器、循環器、呼吸器、整形外科、認知症、医療制度を取り上げ、具体的な内容な症例を呈示しながら、高齢者の抱える、生物学的、医学的、社会的問題を総合的に理解できるように構成している。